


令和元年度 研究サマリー

研究会名称	腎疾患の発症・病態生理と進展防止に関する研究会	
代表者所属	東京女子医科大学	
代表者氏名	新田 孝作	
研究方法・結果	<p>令和元年度の研究プロジェクトの目的は、保存期の慢性腎臓病 CKD 患者において、high-density lipoprotein cholesterol (HDL-C)の低値が腎障害の進行に關与するかどうかを検討することでした。</p> <p>東京女子医科大学の腎臓内科の外来を受診した 120 症例を対象としました。低 HDL-C 群 (n=30)と高 HDL-C 群(n=90)の 2 群に分けて比較しました。年齢、性別、原疾患、血圧、BMI、eGFR、尿酸、中性脂肪、腹部内臓脂肪面積、頸動脈 IMT および処方内容に有意差を認めませんでした。</p> <p>多変量 Cox 比例ハザード解析で腎予後因子を分析しました。Primary endpoint を 30%以上の eGFR 低下または末期腎不全への移行とし、Kaplan-Meier 曲線により腎生存率を解析しました。</p> <p>低 HDL-C 群は高 HDL-C 群と比較して有意に腎生存率が低かった(P<0.0001)。しかし、年齢層別解析によると、70 歳以上の症例では有意差は認められませんでした。多変量解析では、低 HDL-C 血症と末期腎不全との間には有意な関連性がありました (HR 4.80, P=0.009)。この関連性は、とくに 70 歳未満の女性において顕著でした(HR 13.86, P=0.0033)。</p> <p>低 HDL-C 血症は、CKD の進行に關する重要な予測因子であり、とくに 70 歳未満の女性において、その傾向が強いと考えられました。</p>	
研究成果 (論文、学会発表、雑誌掲載等)	<p>1 Kawachi K, Kataoka H, Manabe S, Mochizuki T, Nitta K: Low HDL-cholesterol as a predictor of chronic kidney disease: a cross-classification approach and matched cohort. Heart and Vessels 34: 1440-1455, 2019</p>	